

台風や集中豪雨によって、様々な被害が起こっています。天気予報により事前の情報を得ることはできますが、自然の猛威を止めることはできません。自らの身を守るためには台風や集中豪雨に備えて、準備や対策を行うことが大切です。

### ●台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさの階級	風速15m/秒以上の半径	強さの階級	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒以上~44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上



### ●風の強さと吹き方

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~30m/秒未満	30m/秒以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。多くの樹木が倒れる。

### ●雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10mm以上~20mm未満	1時間雨量 20mm以上~30mm未満	1時間雨量 30mm以上~50mm未満	1時間雨量 50mm以上~80mm未満	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝などがあふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

### ●線状降水帯

「線状降水帯」とは、数時間にわたって発達した雨雲(積乱雲群)がほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50~300km 程度、幅 20~50km 程度の強い降水をともなう雨域を意味します。ひとたび「線状降水帯」が発生すると、わずかな時間で災害発生の危険度が急激に高まることがあります。気象情報に十分注意し、「線状降水帯」に関する情報が発表されたら、ただちに身を守る行動をとってください。



### 防災対策の事例

- テレビやラジオなどの気象情報に注意する。
- 家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオなどを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常持ち出し品を準備しておく。
- 危険な地域にお住まいの方は、いつでも避難できるよう準備をする。

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は非常に困難です。気象情報や災害の前兆現象から危険レベルを判断し、行動することが重要になってきます。

### 集中豪雨の危険を知っておこう

#### ◆短時間で危険な水位

河川、溪流、下水管、用水路などは、激しい雨が降ることやまわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態になります。



#### ◆注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する

大雨や洪水の注意報・警報の発表基準に達していないわずかな雨でも、災害が発生するおそれがあります。



#### ◆離れた場所の雨でも影響する

自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。



### こんな前兆を確認したらすぐに避難

- ① 川の近くでは、まわりの空が真っ黒になったらすぐに避難する
- ② 雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する
- ③ 冷たい風が吹き出したら注意する
- ④ 大粒の雨やひょうが降り出したら建物内へ避難する
- ⑤ 雨の日に周囲より低い位置にいる場合は、高い場所へ移動する
- ⑥ 川の近くでは警告のサイレン音がしたらすぐに避難する

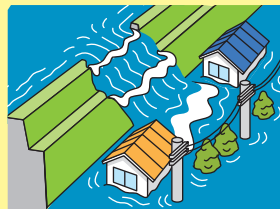


### 大雨による川のはん濫

雨量の増加によってもたらされる「はん濫」には、川から水があふれたり、堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

#### 外水はん濫

大雨によって、河川を流れる水が大幅に増え、堤防が決壊したり、堤防から水があふれ出す現象です。



#### 内水はん濫

排水能力を超える多量の雨が降り、排水が追い付かず土地や建物が水に浸かる現象です。



### 車での避難はここが危ない!

大雨が降っているときは、路面冠水に遭遇する危険性があります。



#### 想定される危険

##### ◆激しい雨で前が見えなくなる

大雨時はどれだけ車のワイパーを動かしても、前が見えなくなってしまうことがあります。

##### ◆路面冠水の危険

路面冠水で車のエンジンが停止することがあります。空ぶかしをしてマフラーからの浸水を防ぎましょう。

##### ◆車から出られなくなる

浸水中の車は、水圧でドアが開かなくなり、また、60～70センチまで浸水すると車が浮き始めます。

#### 避難のポイント

##### ◆徐々にスピードを落とす

雨で視界が悪い場合、急停車せず、ゆっくりと減速する。

##### ◆エンジンが止まってもあわてない

エンジン保護のため再始動せず、感電防止のため車のキーをオフにする。

##### ◆ガラスを割って脱出する

万が一に備えて、特殊ハンマーを車内に常備し、あわてずにできるだけ早く窓を割って脱出する。

風水害を最小限に抑えるためには、まず風水害に対する正しい知識が必要です。あわせて住まいがある場所で水害や土砂災害などが発生したら、どのような状況になるのかを把握しておかなければなりません。風水害に関しては、数多くの気象情報が発表されています。市ではそれらを参考にして避難指示など避難に関する情報を発令します。これらの情報をもつ意味なども理解しておき、いざというときに備えましょう。

### 大雨注意報、警報、特別警報の発表のめやす (詳細はP3に)

#### 大雨注意報

災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報

#### 大雨警報

重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報

#### 大雨危険警報

特に強い雨が予想され土砂災害や洪水の危険がある場合

#### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合

### 自宅周辺の災害危険度を知っておきましょう

#### 防災マップを確認しましょう

防災マップとは、地域における災害の危険度を示した地図です。例えば、浸水想定区域は、予想される浸水深の程度に応じて危険度を色分けし、表示しています。防災マップを確認して、自宅付近がどの程度の危険度になっているのか知っておきましょう。

ただし、防災マップに記載された情報は、「特定の想定」に基づく被害予測です。東日本大震災で明らかになったように、想定を上回る被害が出るおそれは十分にあります。防災マップを活用して防災意識を高めることは重要ですが、頼り切ってしまうのは危険です。いざというときに自ら危険を判断できる能力を養うことが本当の防災対策です。

#### 過去の風水害履歴を調べましょう

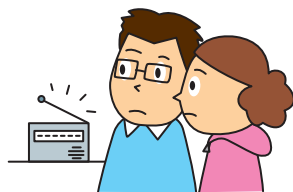
過去に水田や湿地だった場所、河川の近く、低地などは浸水被害を受けやすいことは容易に想像できます。斜面の近くでは、がけ崩れなどのおそれもあるでしょう。こうした災害は繰り返し発生します。地域の歴史を図書館で調べるなどして確認してみましょう。地域によっては、風水害が多いことが地名に残っている場合もあります。

### 洪水における避難のポイント

#### ！ 浸水が始まる前に早めの避難を

はん濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。

気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



#### ！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



#### ！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、はん濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



#### ！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の様子は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、ライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通ることは避ける。



